

令和3年度地域活動サポートセンター活動実績報告

事業名	概要	活動報告		成果	課題	令和4年度の取組み
介護予防運動活動支援事業	市民に対し、介護予防のための運動活動を自主的に地域で行えるサポーターを養成し、地域にて実践することにより、高齢者の介護予防に繋げる	ポールンピック大会	<ul style="list-style-type: none"> 予選会 71チーム、参加者538人 本大会 8チーム、参加者78人 	各地域の公民館等で予選会を行ったことにより、参加者が増えた。	シニアクラブ連合会や運動サポーターが活動している福祉会に属していない地域からの参加がない。	<ul style="list-style-type: none"> 予選会 9月20日～10月26日 決勝 11月4日 現在、シニアクラブや福祉会などを通し参加チームを募集している。
		運動サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> 運動サポーター登録 43人 養成講座回数 5回 延参加者数 44人 フォローアップ研修 8回 延参加者数 133人 	コロナ禍だったが、例年と変わらない程度サポーターを養成できた。また、体力測定専門とデュアルタスクトレーニング専門のサポーターを養成し、活動の幅を広げていくことができた。	今年度は、フォローアップ研修の予定を年度始めに案内したが、十分に周知できていなかったため、参加者が偏っていた。また、日程を曜日で統一したことにより、参加することが難しいという意見も聞かれた。	6月に13人養成した。内、8人はサポーターとして活動予定。
		地域で実施されている介護予防運動教室の支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援地域 18カ所 延支援回数 310回 延活動参加人数 4268人 サポーター延べ支援数 589人 	千鳥東ヘルスステーションが1カ所立ち上がった。コロナ禍においても、サポーターが感染症対策を講じ、できる範囲で活動を行った。	サポーターがいても、コロナの影響で活動が止まっているところがある。小野小・花鶴小学校区など地域サポーターが少ない地域での活動がない。	今年度の養成講座にて、新たな地域からの参加者も含まれていたが、地域活動にはつながらなかった。福祉会・ポールンピック大会などを通し、再度声掛けを行っていきたい。
		出前講座	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり回数 33回 延べ参加者数 593人 シニアクラブコラボ講座回数 10回 186人 	まちづくり出前講座に加え、出務依頼などもあり、サポーターの活躍する出前講座がコロナ禍においてもある程度依頼があった。また、まちづくり出前講座のメニュー以外に、シニアクラブとコラボし地域での介護予防運動活動を推進した。	シニアクラブや福祉会など、出前講座を申し込む地域はほとんどが毎年同じ地域である。	昨年度同様に、まちづくり出前講座に加え、シニアクラブとのコラボで、体力測定を実施している。また、地域の介護予防運動教室でも希望のある地域で体力測定を行い、地域活動及び家トレの充実に繋げている。
介護予防音楽活動支援事業	地域で音楽を通した介護予防活動を行う人材育成を行い、地域の公民館等で介護予防活動を実施し、高齢者の健康づくりや介護予防を推進する	音楽サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> 音楽サポーター 33人 養成講座回数 13回 延べ参加者数 95人 フォローアップ研修 7回 延べ参加者数 85人 	養成講座では5名の受講生が修了した。全員が地域で活動することを希望しており、新年度スタート予定の2箇所にはサポーターとして活動して貰う予定である。フォローアップ講座は自主勉強会2年目になる。鍵盤ハーモニカの練習の他にレクリエーション講座、認知症サポーター講座等活動に直接役立っているという声も聞かれる。	地域住民の音楽サポーターによる介護予防音楽活動の開催を目指しているが、地域住民のサポーターがまだいない所もあるので（6箇所）、今後養成講座の受講生募集の時には心掛けて声かけしたい。	今年度の養成講座には、10名の受講申込みがあった。受講生の中に古賀市の介護予防サポーター活動の仕組みがよく解らないという声があったので、サポーター研修用のDVDを見てもらう機会を養成講座の中に取り入れてサポーター活動についての理解と協力をお願いしたい。
		地域で実施されている介護予防音楽教室の支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援地域 16カ所 延べ支援回数 173回 延べ活動参加人数 1659人 サポーター延べ支援数 275人 	今年度も緊急事態宣言中は活動は停止であったが、蔓延防止措置の間は16地域中、開催7箇所、中止9箇所であった。開催をした地域では、感染対策に十分に気をつけた上で集まって活動し、フレイル予防につながれたと思う。	音楽活動サポーターとして活動が7年目を迎える方も多く、長年にわたるご支援を有難く思う。ただサポーターの方も次第に高齢化してゆくの、若い世代のサポーターを増やしていく必要があると考える。	今までの様に集まって練習する「集トレ」だけでなく日々の個人での「家トレ」の重要性を推し進めていきたい。
		活き生き音楽交流会	<ul style="list-style-type: none"> 参加地域 14カ所 参加人数 176人 	撮影、DVDの編集はデジタルサポーター2名の協力によって行われている。年に一度の演奏の撮影は参加者の練習のモチベーションになっていると思われる。	今後も一堂に会して交流することは難しいので、DVD録画を続けることになるだろうが、録画の機材がサポーター頼みなのが気掛かりである。	前年度はコロナ感染対策による活動の中断で録画時期のスタートが遅れたので、今年度は余裕を持って早めに計画したいと思う。
介護予防サポーター活動支援事業	高齢者の社会貢献を促すことで、生きがいづくりに寄与するとともに、地域や高齢者施設等の生活支援や介護予防も併せて進める	<ul style="list-style-type: none"> サポーター登録者数 201人 地域・施設等登録数 42カ所 延べ支援回数 847回 サポーター延べ支援数 1433人 延参加者数 8752人 	コロナ禍において、サポーター活動も自粛・縮小を余儀なくされる状況だったが、前年度とほぼ同数の201人の方がサポーター登録をしており、介護予防サポーター活動に対する意欲を感じることができた。	コロナ禍で地域活動が自粛・縮小され、介護予防サポーター活動の活躍の場の確保が難しい。また、施設等においても、感染症対策のため介護予防サポーターの受入が難しい状況である。	コロナ禍において減少している介護予防サポーターの活動の場所を増やすため、介護予防サポーターの受入れを希望する介護サービス事業者と介護予防サポーターの「マッチング会」を9月に実施予定。	

事業名	概要	活動報告	成果	課題	令和4年度の取組み	
地域活動サポートセンター運営事業	地域のつどいの場や高齢者施設等で行われる健康づくり等の活動を支援するボランティアを養成し、高齢者等の健康の増進及び社会参加の促進を図る	ゆいさぼ教室	・12教室 サポーター延人数 168人 受講者延人数 811人 開催回数 163回	ビギナー教室の受講がきっかけとなり、サポーター登録をするという流れが定着してきた。	新型コロナウイルス感染症の影響で講座が急遽休みになることもあり、受講者への連絡に手間取った。	6月より令和4年度のビギナー教室が開講し、延77人のビギナーが参加。新しく3講座が新設され、計13の講座が介護予防サポーターの指導の下行われている。
		ゆい出前講座	・回数 5回 延参加者数 106人	新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度には出前講座の依頼が全くなかったが、少しずつ依頼が増えてきた。	介護予防サポーターとして活躍する場が少なく、意欲向上が難しい。	令和4年度よりゆい出前講座のメニューをリニューアル。ネットワーク通信13号に出前講座一覧を掲載し周知。徐々に依頼が増えている。(7月11日時点で10件)
外出促進事業	高齢者の社会参加を促し、閉じこもりの予防と健康づくりを推進する	高齢者外出促進事業	・期間：令和3年7月～ 令和4年2月10日 ・シール配布対象イベント数 地域：177 行政：42 ・応募枚数 976枚 ・当選人数 100人	コロナ禍でイベントが中止・変更になることも多かったが、事業の実施方法を一部変更し、柔軟に対応することができた。令和3年度の応募締切後以降に配布したおでかけシールは令和4年度の応募に利用でき、通年シールの配布が可能となった。	イベント登録をする団体が多い地域と少ない地域があり、地域間でシールをもらえるイベント数に差があった。	令和4年度の事業を4月から開始。今年度より通年イベントシールの配布を可能とした。50の団体よりイベント登録の申請済(7月11日時点) 7月から応募開始。区長会、福祉会等の地域のつどいの場で事業への参加を呼びかけ登録イベントを増やし、地域の高齢者に積極的につどいの場等への参加を促すことで介護予防の促進を図る。
		こがんよか健康ポイントキャンペーン	・期間：令和3年7月～令和4年1月 ・応募人数 46人 (当選人数27人)	キャンペーンを通してふくおか健康ポイントアプリを知ってもらい、健康づくりのきっかけとなった。	キャンペーン初年度ということもあり、認知度が低く応募人数が少なかった。	7月より「令和4年度こがんよか健康ポイントキャンペーン」開始。昨年度よりも実施期間を短縮し、応募に必要なポイント数も少なくすることで参加しやすくなった。区長会、健診時、福祉会等に周知する。
		こまめ隊就任記念カードラリー	・期間：令和3年11月～令和4年3月 ・賞品受取 22人	介護予防キャラクター「こまめ隊」について周知し、外出と介護予防で必要なことを知ってもらうきっかけとなった。	離れている場所にはカードをもらいに行く人が少なかった。	令和3年度にこまめ隊が古賀市の介護予防キャラクターとして任命された記念のイベントだったため、令和4年度の開催予定はないが、今後も介護予防キャラクターとして介護予防を推進する。
生活支援体制整備事業	地域の支え合いネットワークの構築を行い、住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせる体制を整備する	地域支え合いネットワーク全体会	1層：令和3年度活動報告会 2層：テーマ：地域と専門職をつなぐ 8小学校区にて開催 参加総数 152人	1層：SCの年間の総括会を実施予定(3/28) 2層：8小学校区で地域リーダーと専門職の地域担当の顔合わせを行い、そのことで地域と専門職のマッチングを行なえた。 ・校区課題を明確にして、専門職と共に意見交換を行う。	コロナの影響で、1層・2層の会を中止にしなかったものの、人数制限を行っての実施となり、多くの人に参加を呼び掛けることができなかった。	地域支え合いネットワーク全体会開催予定 ・第1層(年度末)令和4年度活動報告 ・第2層(準備中) 8小学校区にて、各地域の活動報告会を企画中
		ネットワーク通信	12号：コロナ禍のつどいの場 13号：出前講座一覧2022 各5000部	コロナ禍において、つどいの場が中止になっていく中、つどいの場の重要性や再開支援になる情報提供を行った。	情報誌の意味においては、いかに多くの高齢者の手に届くかが重要であり、つどいの場が閉まる中、配布の場等が限られていったのは課題であった。	介護予防・生活支援の地域社会資源の見える化を目的として、本年度も発行予定 14号(10月)・15号(3月末)
		介護予防・生活支援課題別会議	・課題別会議(買い物支援) ・社会資源の開発 ・社会資源の見える化	買い物支援に関して、古賀市の中でSC業務として、関係機関や地域リーダーを巻き込み、協議の場を持ち、新たな事業の模索を行った。そのことで、古賀市の買い物支援に関する現状把握ができた。	古賀市の高齢者に合った介護予防活動や生活支援をいかに作りこんでいくか、関係者が集まり協議し、具体化していくことが体制整備において重要であり、課題別会議に持ち込む工夫が必要。	古賀市の高齢者課題を分析を行い、課題別に当事者が集まり、協議を行う ・買い物支援 ・住民主体の地域づくり ・古賀市の高齢者課題の情報共有
		SC/CSW連携タイム	・年間45回 SC/CSW学習、情報共有・事業の構築	本年度よりSC・CSWの業務が中学校区に1名配置された。1層SCと2層SCがつねに情報共有を行い、一体となって業務が行うことができた。	本年度は、新体制になったことから、学習や地域分析に関する協議が多く、社会資源の創出の取組が少なかった。	・週1回実施(地域状況の情報共有・研修・課題別会議の企画) ・地域交流カフェ年間5回 地域のつどいの場と地域活動サポーターのマッチング